

浦安市立図書館の運営に関する考察*

—主として1985～2000年を対象に—

常世田良 (学籍番号 200323985)

研究指導教員 : 薬袋秀樹

1. 研究の背景

公立図書館に対する一般市民のニーズは高いが、図書館現場から正規職員の司書が減り、予算が削減され、「図書館の冬の時代」と呼ばれる状況が起きている。その中で少数ではあるが司書を配置し、予算、施設を確保して、市民へのサービスに関して実績を挙げている図書館も存在する。これらの図書館において、サービスの実績を高めている要件を明らかにすることが必要である。

浦安市立図書館は、25年間にわたり、概ね貸出点数を増加させ、多様なサービスを提供し、それらのサービスの実績に関しても比較的高い水準を保っている。図書館サービスの展開を支える要件を総合的に分析する対象として、浦安市立図書館の運営の軌跡をたどることは有効であると考えられる。

2. 研究目的

本研究の目的は、浦安市立図書館においてサービスの質、量を向上させた要件を明らかにすることである。

3. 先行研究

浦安市立図書館については、サービスの質や量を支える要件を研究対象とした文献は見られない。同図書館については、学術的な文献ではないが、同図書館の初代館長の著作『図書館の街 浦安』『浦安の図書館と共に』『図書館のある暮らし』や関係者からの聞き取りをもとに同図書館の状況を紹介した『浦安図書館を支える人々』などがある。

* “A Consideration about Management of

Urayasu Public Library : 1985～2000” by Ryo TOKOYODA

4. 研究方法

主として図書、専門雑誌、一般雑誌等を対象に文献調査を行い、補完的に当時の教育長から聞き取りを行うとともに、同氏作成の業務日誌を調査した。

調査項目に関しては、図書館経営論において、一般的に図書運営の主要な要素とされる項目を調査対象とし、以下の観点で要件を抽出した。

- ・理事者の図書館に対する理解や方針・政策
- ・館長や司書の状況と組織、研修、施設、機械化などの状況
- ・市民、行政の状況、連携のあり方

5. 浦安市立図書館運営の状況

5.1 理事者の状況

浦安市の場合、専門職館長の就任以前に、その後浦安市立図書館の高い実績を生む要因となっている大規模中央図書館の設置、専門職図書館長の招聘、経験のある専門職採用、複数の分館を設置、電算システムの導入などを既に市長、教育長の判断で政策として決定していた。その後も一般的な自治体では実施困難な手法を市長自らの指示で実現している。

また理事者が行政内部の人心を掌握しなければ具体的な政策は実現できないが、この点でも当時の浦安市長、同教育長は必要な人心掌握を実現している。

5.2 専門職館長の招聘

専門職館長のあり方については、専門職としての資質は当然のことながら、図書館内部に対するリーダーシップの発揮、理事者をはじめとする市長部局への説得力、マスコミ等の外部へアピールする能力などの重要性が指摘される。浦安市立図書館の場合は、県立図書館から招聘された歴代の館長が上記の資質を備えていたことにより、規模の大きな図書館システムを短期間に立ち上げるとともに、その後の高いサービス実績の維持が可能となった。

5.3 専門職員の採用

通常自治体の図書館における職員配置の状況は、首長部局からの異動か、あるいは新卒の専門職を採用して配置することが一般的である。稀に館長として、経験のある専門職員が他の自治体から招聘されることはあるが、その他の専門職員が同時期に、他の自治体、機関から招聘されることは極めて稀である。

浦安市においては、多数の専門職が他の自治体、大学、機関から採用され、しかも中央図書館開館後数年を経た後においても同様の職員採用が行われていることが特異な点である。そのように採用された専門職員がその後の浦安市立図書館のサービスの展開に少なからず貢献していることは、サービス実績や文献による評価から明らかである。

5.4 財政状況と図書館予算

浦安市の財政状況は、過去30年間の日本経済の浮沈からは余り影響は受けていない。住宅地中心の街づくりのため、地元企業の経営状態に影響されることが要因のひとつである。また大型リゾートの存在なども含め、大規模開発により統一感のある町並みの生成による高級感のある街づくりに成功し、路線価格の高値安定などによる市税の確保に成功している。これらの施策は、当時の市長が構想したもので、いわば「高く売れる街」生成の政策が成功した結果といえる。

図書館予算は、中央図書館開館前年から一般会計の1.1～1.5%で推移し、資料費は1億円以上を維持している。

5.5 組織と研修

資料の選書、移管、廃棄、書架管理を分野別に行なう「蔵書構成グループ」、サービス別業務別の「業務グループ」などが図書館の運営を担うとともに研修の単位となっている。

5.6 機械化

中央図書館開館前後の膨大な事務量を処理するために、我国ではじめてオンラインリアルタイム処理システムを導入してカウンターでの貸出作業や資料の受入、目録作成作業が軽減された意味は大きい。

5.7 地域と住民の状況

従来、浦安市立図書館は、新しく転入した都市型の高学歴高収入の住民に支持され、従来の町民は図書館設置には関与していない、という言説が存在し

ているが、浦安の地域は、江戸時代から明治時代まで水運の要衝であり、そのため文化的にも決して低い地域ではなかった。戦前、戦後も住民の中間層、富裕層は大半が東京の学校へ進学し勤務先を東京に求めていた。その階層が埋立ても含めた浦安市の急激な変化に対応して地域と行政を支えた。図書館設置に関しても、これらの階層を含む旧来の住民と転入者が支持した。

6. 浦安市立図書館における要件

6.1 理事者における図書館理解

本調査を通じて、図書館運営に最も重要な要件と思われるものは、理事者の図書館への理解と行政内部の人心掌握にある。

6.2 専門職館長、専門職員の配置

館長が専門職としての資質、リーダーシップ、市長部局への説得力等の資質を備えていること、現場経験のある即戦力となる専門職が継続的に多数採用され配置されたことなどが重要な要件である。

6.3 財政状況

当該自治体の財政状況は、図書館サービスの展開に関して重要な要件ではあるが、決定的な条件ではない。

6.4 地域と住民の状況

図書館設置に関しては、旧来の住民や転入者など、地域の多様な住民の支持が重要な要件である。

6.5 要件の相互作用

図書館サービスの質を向上させ、サービス実績を挙げる要件の存在について浦安の事例を分析した結果、要件が相互に影響し合うことにより、図書館運営にとって、さらに良好な状況がつけられるプロセスの存在が推測できた。

参考文献

- 竹内紀吉『図書館の街』未来社1985,227p.
- 竹内紀吉『浦安の図書館と共に』未来社,1989,231p.
- 鈴木康之他『浦安図書館を支える人々』日本図書館協会,2004,301p.